

【目的】情報処理技術の発展また人間のバーソナリティも寸法個性を化して、優先対する人をえ考へて構成する。後、これまでの胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。自部ン要と構成合はせば、成り立つ。

衣服生産もファッショニヨン圖果を得たが、個々の体型は複雑で造もたて形踏いよ。

そこで、従来の平面圖を試み、一応の結果を得たし、従来の条件の衣服を作成して、その前胸部の構成要因について示唆を得たので報告する。

【方法】被験者は平均年齢19.3歳の女子50名。右前胸部体表面付基準線(ヨコ:頸付根線, 肩線, 胸形)を描き、石膏包帯でし含全體を作成する。胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。

そこで、従来の平面圖を試み、一応の結果を得たが、個々の体型は複雑で造もたて形踏いよ。

【結果】1. 平面圖各部位の間隔が $\bar{x}=1.81\text{cm}$ 、側部乳頭位胸圍線との間隔が $\bar{x}=1.80\text{cm}$ あり、下脇部乳頭線との間隔が $\bar{x}=2.82\text{cm}$ が発生し、腕付近までの短い間隔が $\bar{x}=0.81\text{cm}$ の間隙が表出する。女子でのバランスによる立体性は、上脇部線と脇部線との間隙は $\bar{x}=0.81\text{cm}$ である。

2. 展開図の大きさ・表出部位の間隔を求める。胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。

【結論】胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。

【目的】情報処理技術の発展また人間のバーソナリティも寸法個性を化して、優先対する人をえ考へて構成する。後、これまでの胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。

衣服生産もファッショニヨン圖果を得たが、個々の体型は複雑で造もたて形踏いよ。

そこで、従来の平面圖を試み、一応の結果を得たが、個々の体型は複雑で造もたて形踏いよ。

【方法】被験者は平均年齢19.3歳の女子50名。右前胸部体表面付基準線(ヨコ:頸付根線, 肩線, 胸形)を描き、石膏包帯でし含全體を作成する。胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。

そこで、従来の平面圖を試み、一応の結果を得たが、個々の体型は複雑で造もたて形踏いよ。

【結果】1. 平面圖各部位の間隔が $\bar{x}=1.81\text{cm}$ 、側部乳頭位胸圍線との間隔が $\bar{x}=1.80\text{cm}$ あり、下脇部乳頭線との間隔が $\bar{x}=2.82\text{cm}$ が発生し、腕付近までの短い間隔が $\bar{x}=0.81\text{cm}$ の間隙が表出する。女子でのバランスによる立体性は、上脇部線と脇部線との間隙は $\bar{x}=0.81\text{cm}$ である。

2. 展開図の大きさ・表出部位の間隔を求める。胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。

【結論】胸幅と胸深さの差が型れを面密衣着で握る。動位ス素し成り立つ。